

令和7年度学校評価結果について

日野市立第三中学校では、令和7年度の教育活動について、保護者、生徒、教職員の三者間で観点をそろえたアンケートを実施しました。（アンケート実施時期：12月）ここで得られた回答と、組織内での評価を経て、学校評価のまとめとします。この結果をよりよい学校づくりに活かしていきます。

日野市立日野第三中学校
校長 伴 光明

1 保護者回答率

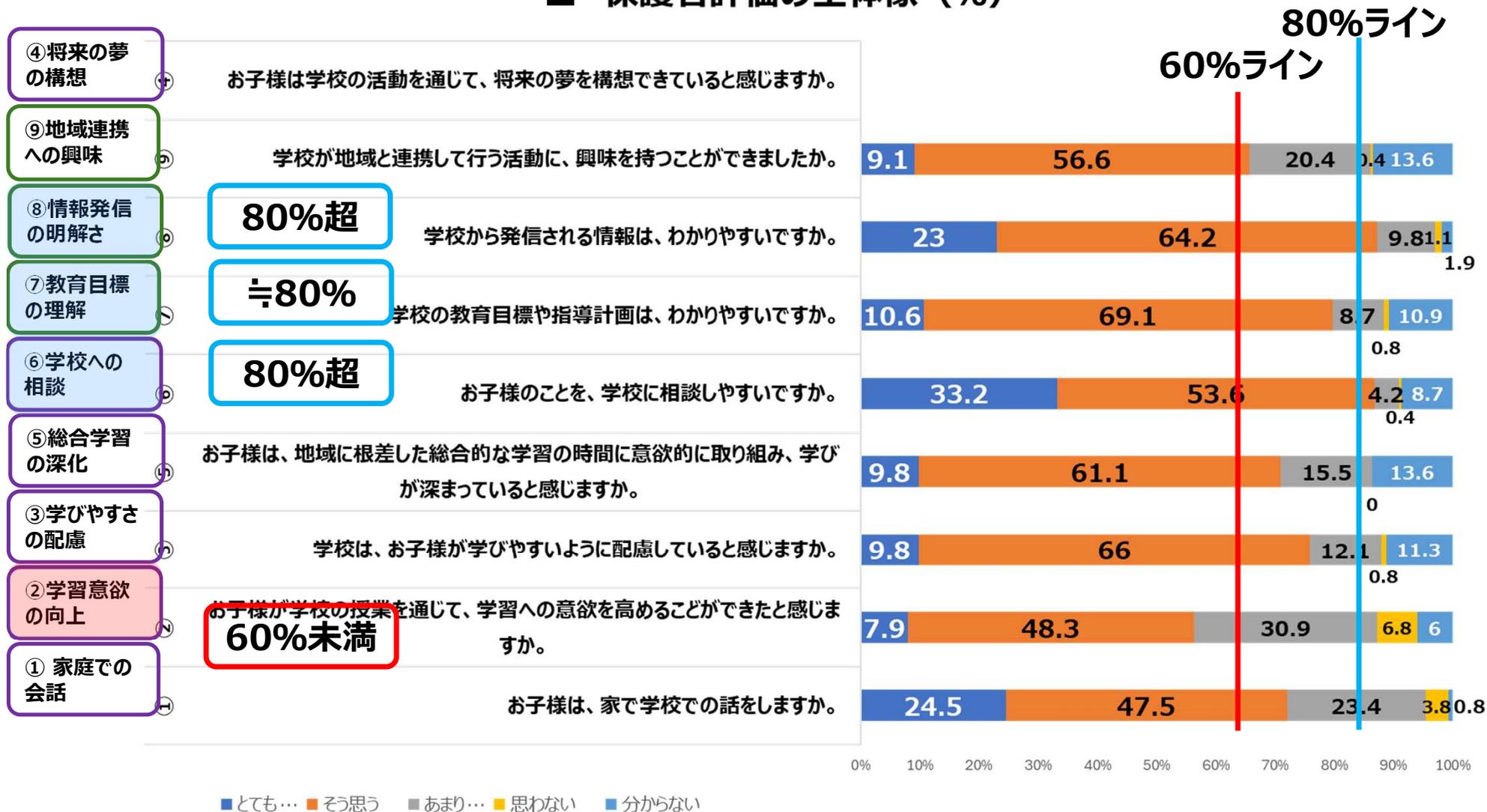
| 6年度 | | | | 7年度 | | | |
|-----------|------------|------------|------------------|-----------|------------|------------|------------------|
| | 在籍生徒数 | 回答数 | 回答率 (生徒数/回答数) | | 在籍生徒数 | 回答数 | 回答率 (生徒数/回答数) |
| 3学年 | 94 | 38 | 40.4% | 3学年 | 122 | 104 | 85.2% |
| 2学年 | 122 | 53 | 43.4% | 2学年 | 100 | 89 | 89.0% |
| 1学年 | 100 | 72 | 72.0% | 1学年 | 91 | 79 | 86.8% |
| 合計 | 316 | 163 | 51.6% | 合計 | 313 | 272 | 86.9% |

※ 兄弟姉妹等の在籍によるダブルカウントがある

35.3%[※]の上昇！
関係の皆様へ感謝！



2 保護者評価の全体像 (%)



3 生徒評価の全体像 (%) その1

④ 将来の夢の構想

④ 学校での活動を通じて自分の将来の夢を考えることができた

③ 学びやすさの配慮

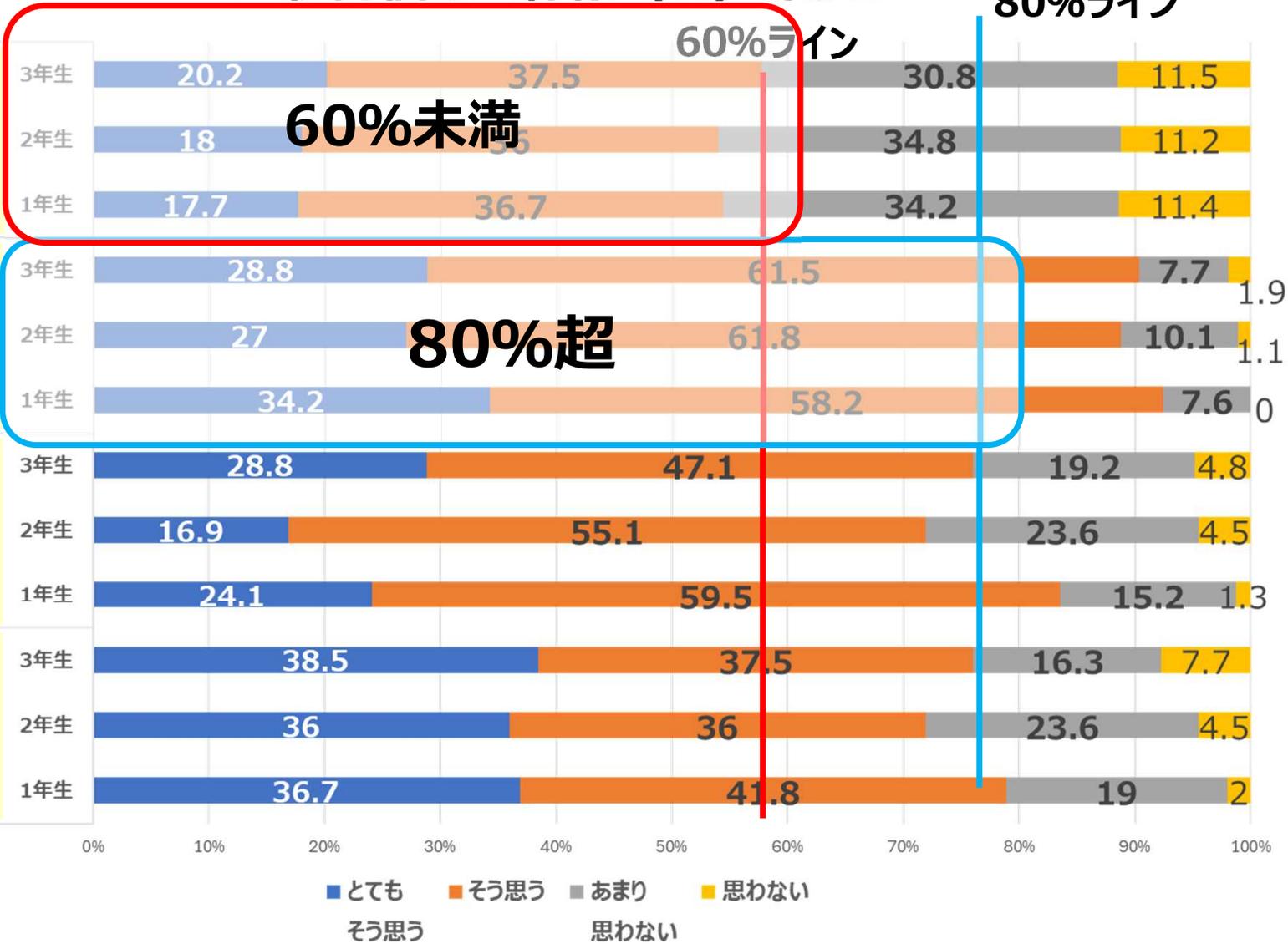
③ 先生の教え方や教材の工夫によって、学びやすいと感じている

② 学習意欲の向上

② 授業を通して、その教科に対して意欲を持つようになった

① 家庭での会話

① 学校での出来事について家族に話している



60%未満

80%超

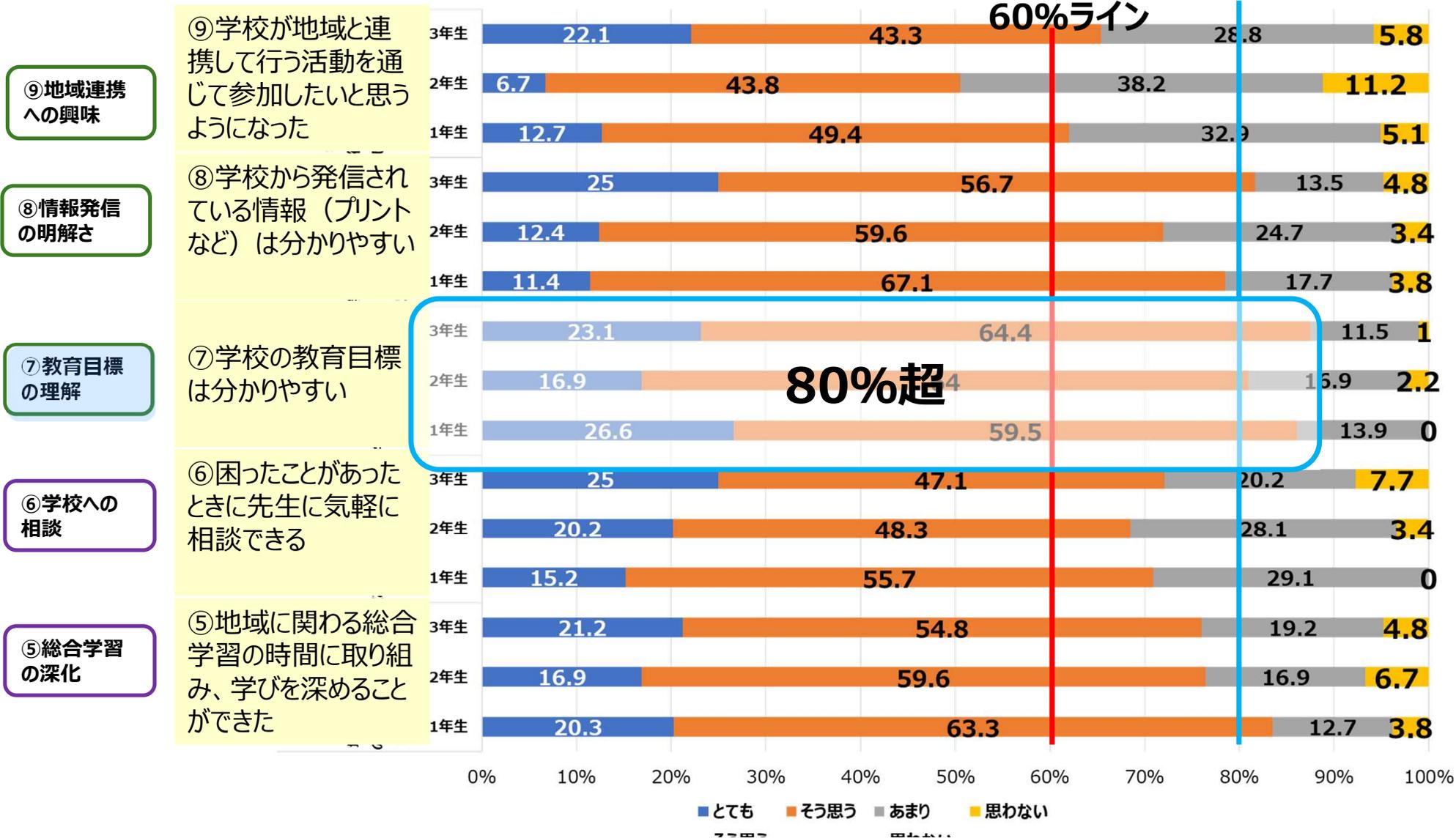
60%ライン

80%ライン

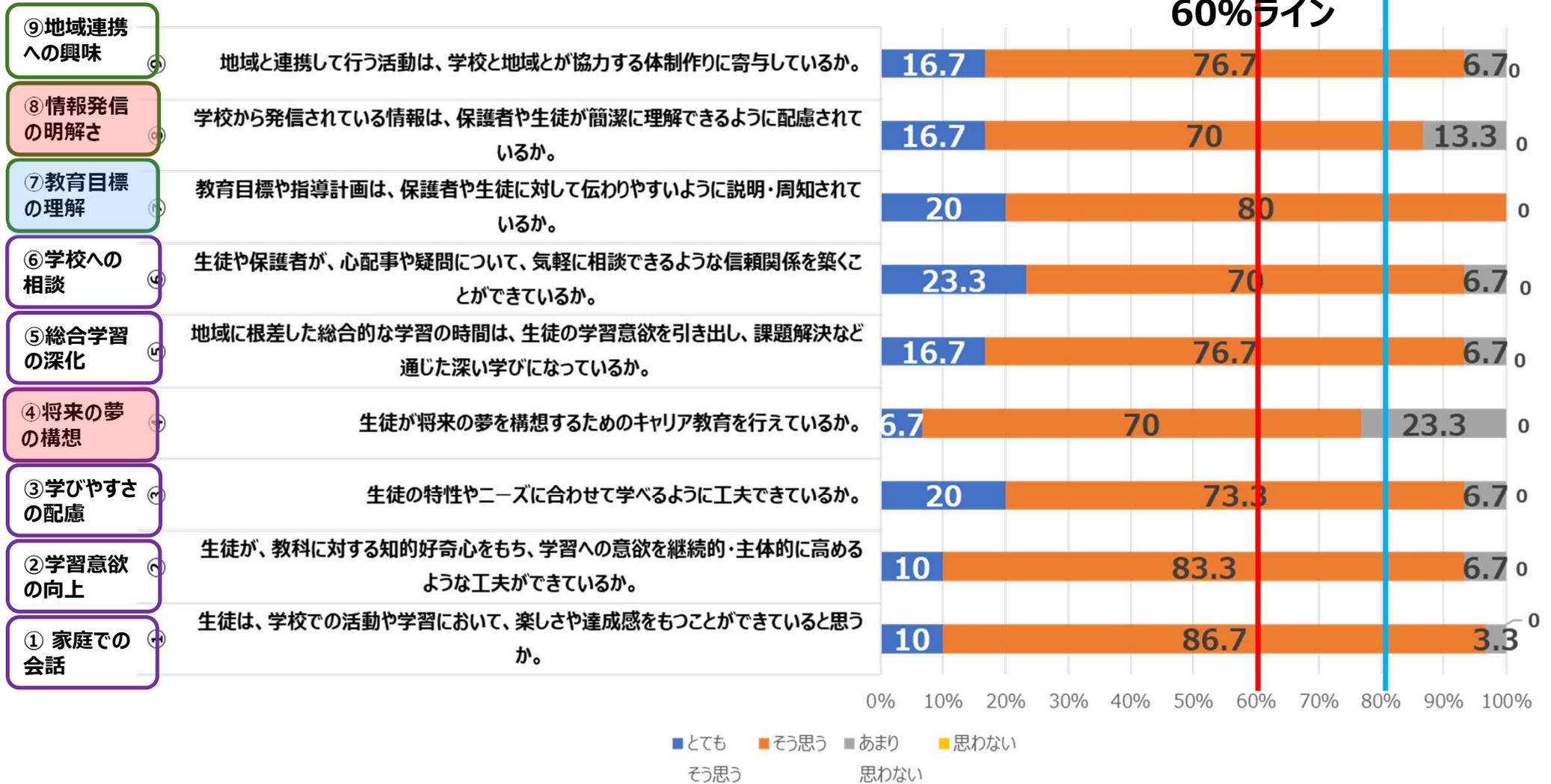
3 生徒評価の全体像 (%) その2

80%ライン

60%ライン



4 教員評価の全体像 (%)



5 各評価結果 (%) の比較

表. 肯定的な評価「とてもそう思う」と「そう思う」の合計

*濃色になるにつれて、数値が大きい

| 質問項目(要約) | 保護者 | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 教員 | 差(最大-最小) | |
|------------|-----------------|-----------------|-----------------|-------|--------|---------------------|-----------|
| ① 家庭での会話 | 72.0% | 78.5% | 72.0% | 76.0% | 96.7% | 24.7 ポイント | |
| ② 学習意欲の向上 | 課題 56.2% | 83.6% | 72.0% | 75.9% | 93.3% | 次点 37.1 ポイント | |
| ③ 学びやすさの配慮 | 75.8% | 92.4% | 88.8% | 90.3% | 93.3% | 次点 17.5 ポイント | |
| ④ 将来の夢の構想 | 全体的に低い傾向 | | 54.4% | 54.0% | 57.7% | 76.7% | 22.7 ポイント |
| ⑤ 総合学習の深化 | 70.9% | 83.6% | 76.5% | 76.0% | 93.4% | 22.5 ポイント | |
| ⑥ 学校への相談 | 86.8% | 課題 60.9% | 68.5% | 72.1% | 93.3% | 24.8 ポイント | |
| ⑦ 教育目標の理解 | 79.7% | 86.1% | 80.9% | 87.5% | 100.0% | 20.3 ポイント | |
| ⑧ 情報発信の明快さ | 87.2% | 78.5% | 72.0% | 81.7% | 86.7% | 最小 15.2 ポイント | |
| ⑨ 地域連携への興味 | 65.7% | 62.1% | 課題 50.5% | 65.4% | 93.4% | 最大 42.9 ポイント | |

6 評価結果分析

保護者や生徒からの意見 1. 評価されている点

【先生方の姿勢と学校の雰囲気】

校長先生をはじめ、学年を問わず気さくに声をかけてくれる温かい雰囲気に救われているという声があった。

保護者は、不登校や支援が必要な子への粘り強い対応、一人ひとりをしっかり見てくれると実感していると考えられる。

【情報発信の充実】

学年だよりやHPの更新頻度が高く、写真付きで実際の様子もわかるため、会話の少ないご家庭からは「学校での様子が可視化される」と評価されていた。また、プリントとC4thアプリでの配信により、プリントを出さない(出せない)生徒においても、保護者が情報を把握できることも評価されていた。

保護者や生徒からの意見 2. 改善要望や困りごと

【施設・設備】

エアコンが教室ごとに温度調整ができないため、夏は寒すぎたり、冬は暑すぎたりすることによる体調管理が懸念されていた。その他にも、気軽に自習できる「フリースペース」の設置や、Chromebookの修理対応が長すぎること、通学路の安全(樹木の傾きや倒木など)に対する不満もあった。

【時間運用】

給食の時間において、「10分でも長くしてほしい」といった要望があった。また、休み時間においても、「3分前着席」を強要されることへの理不尽感や、前の授業が延びた場合の考慮不足などの不満があった。

【行事・イベント】

合唱祭においては、マスク依存の生徒への配慮、体育祭においては、雨天中止を避けるための予備日の確保などがあった。また、保護者会：「近くの人と話してください」という時間が苦痛であるという意見もあった。



保護者や生徒からの意見 3. その他

【アンケートへのフィードバック】

「この意見欄を本当に見ているのか?」「回答はどこで確認できるのか?」という指摘があった。

【進路・事務手続き】

入試手続きの分担(学校側 or 保護者側)が不明瞭であることに対する不満があった。

【外部連携・ボランティア】

地域の盆踊りボランティアでの生徒の扱いへの不満、外部指導員(吹奏楽部など)との連携において課題を感じている。

【生徒の人間関係】

特定の先生をいじり(「いじめに近い雰囲気」)を心配している。

【デジタル教育への疑問】

デジタル化に対して反対する意見もあった(読み書きや実体験の重視)。

ギャップが大きい項目について

大きなギャップが見られるのは項目②(学習意欲)と項目⑨(地域連携)であった。

【項目② 学習意欲について】 教員は93%が工夫できていると自負しているが、保護者の実感は56%にとどまっている。生徒は80%前後と高い数値であるため、

「学校では意欲的であるが、家庭学習に取り組む姿を保護者が見ていない可能性」や、「実際に家庭学習に取り組んでおらず、評定や定期考査などの結果に表れていない」ことが原因であると考えられる。

【項目⑨ 地域連携について】 教員は93.4%が肯定的であったが、2年生の生徒は50.5%しか興味を示していなかった。

7 学校評価のまとめから改善に向けた構想図



8 三中トリプルプロジェクトと日野市学校教育第4次基本構想

令和7年度学校経営計画
日野市立日野第三中学校
校長 伴 光明



日野市の市民・子供たちが「より良く」生きよとする姿に
日野三中が目指す 教育の目標「自立 共生」を 重ね合わせて
さらに これまでの 蓄積の上に これからを見据え
「学び」に関して2つ 「地域」に関して1つ 合わせて「3つ」の プロジェクトを
重点課題とした 学校経営を 進めていきます。

第4次日野市学校教育基本構想

子供たちが育んでほしい力
すべての「いのち」が 主体的に 今と未来を つくっていく力

子供を真ん中にして みんなが
当事者として かかわっていくことが
この構想を支えています



学びの往還プロジェクト
プロジェクト
教職員の挑戦 探究的で深い学び 居場所・活躍 多様な参画

体験を通じた学びにつながる各教科の内容を分析し
より良い主体的な学びに導く
意図的・計画的な指導計画づくり挑戦！

社会と未来に開き
みんなで作る

学びの連続性プロジェクト
プロジェクト
教職員の挑戦 探究的で深い学び 居場所・活躍 多様な参画

小学校との円滑な接続から 多様な学びの場を貫く
将来の夢につながる 教科指導の実現
主体的な学びのキャリアな 「自立活動」の正しい理解
見える化！ みんなの学びの
多様な学びの場を
多様な学びの場を

地域共創 みっちゅコンソーシアムPJ
プロジェクト
教職員の挑戦 探究的で深い学び 居場所・活躍 多様な参画

三中があつてよかった！
活気ある地域を作る「みっちゅ団」の賑やかな協働
多職種連携を念頭にしながら働きやすくなる協働
場としての学校づくり

みんなが
自然と
自ら歩む道をつくる

日野市立 日野第三中学校 学びの往還プロジェクト

| | |
|--|---|
| 目的 第4次日野市学校教育基本構想「すべての「いのち」がよろこびあふれる今と未来をつくっていく力」の教育理念及び子供と大人の10+の姿の実現 | 中間報告 ①1学期の体験の成果を各教科で共有 ②事例分析から教科会での指導計画の修正を検討 |
| 目標 各教科と総合的な学習の時間等を相互の関係で捉えるカリキュラム・マネジメントの実施 | 成果〇と課題● ○「主体性が育つ授業づくり～総合的な学習の時間での探究的な学習を通して～」として学校研究に取り組み、協議が深まった。令和8年度教育課程編成において、研究成果を踏まえた指導計画を作成、実践。 ●「学びの深まり」を実感する保護者評価が76%に留まった。 |
| 具体的な活動内容 ①体験で得られる気づきが深い学びとなるよう各教科での内容を分析。 ②より主体的な学びにつながるよう意図的・計画的な指導計画づくりに着手。 | |
| 期間 令和7年4月～令和8年3月 | |

日野市立 日野第三中学校 多様な学びと学び方プロジェクト 学びの連続性プロジェクト

| | |
|--|---|
| 目的 第4次日野市学校教育基本構想「すべての「いのち」がよろこびあふれる今と未来をつくっていく力」の教育理念及び子供と大人の10+の姿の実現 | 中間報告 ①キャリアパスポートの活用状況を再検討する ②夏季休業中に研修会を実施する |
| 目標 生徒の夢の実現に向け、場を超えた一貫した教育・支援の実現 | 成果〇と課題● ○②「誰一人取り残さない」決意をこめて8年度教育課程を編成、編成プロセスの共有を図った。 ●①パスポートを始め「キャリア教育」の理解や手応えについて、教員・保護者双方とも他の評価より目立って低い結果。「見える化」が必要。 |
| 具体的な活動内容 ①小学校等と連携し、キャリアパスポートの活用促進、「何を学んだか」「どのように学んだか」の見える化を進める ②「自立活動」等の理解を促進する研修実施 | |
| 期間 令和7年4月～令和8年3月 | |

日野市立 日野第三中学校 地域共創プロジェクト みっちゅコンソーシアムプロジェクト

| | |
|---|--|
| 目的 第4次日野市学校教育基本構想「すべての「いのち」がよろこびあふれる今と未来をつくっていく力」の教育理念及び子供と大人の10+の姿の実現 | 中間報告 ①学校が発信する情報の「スマート化」 ②連絡会議（年3回）での意見交換の「共有化」 ③地域団体、事業所との連携強化 |
| 目標 三中支援ボランティア「みっちゅ団」による学校支援と学校の地域支援の互恵関係の構築 | 成果〇と課題● ○①学校発文書の分かりやすさ、学校ホームページの改善等について保護者からの好評価87.2% ②レクリエーションスポーツ新規団体加盟 ③事業状況、かつ生徒参加多数。 ●保護者の学校への参画、保護者間の交流をいっそう促進 |
| 具体的な活動内容 ①保護者の授業・行事への参画促進 ②「みっちゅ団」団体の拡充 ③「ほどくぼんおどり」等の地域主体事業への学校・生徒の参画促進 | |
| 期間 令和7年4月～令和8年3月 | |

9 学校経営重点シート（学校運営連絡協議会での審議を経たもの）

| 令和7年度 日野市立 日野第三中学校 経営重点計画 自己評価シート | | 令和8年3月公表 | | | | | | | |
|---|------------------------------------|--|---|--|-------|--|-------|---|---|
| ★学校の教育目標 自立 共生 将来に夢や希望を抱き自らその実現に向け成長する力、より良く生きるための基礎的力（＝自立）を付け、地域における学校として助け合い共に生きて | | | | ★重点計画の概要 日野三中 トライ！トリプルプロジェクト プロジェクト1「学びの往還プロジェクト | | | | | |
| ★目指す学校像（ビジョン） | | | | | | | | | |
| 【目指す生徒像】 自己を見つめ、他者を尊重し、認め合い、学び合い、社会の中でよりよく生きようとする態度を身に付けた生徒 | | | | | | | | | |
| 【目指す学校像】 地域の信頼を得て、地域活性化への協働を果たす学校 | | | | | | | | | |
| 【目指す教師像】 生徒のために働くことを第一に、ワークキャリアの各段階においてライフ・ワーク・バランスを実現する教職員 | | | | | | | | | |
| 領域 | 中期経営目標 | 短期経営目標 | 具体的方策 | 評価指標・評価基準 | | | | 学校評議員・学校運営協議会の意見 | 結果の分析と改善策 |
| | | | | 評価点 | 取組指標 | 評価点 | 成果指標 | | |
| みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる | プロジェクト3 「みっちゃん」をシンボルとした三中意識を保護者に浸透 | 保護者の学校への積極的な参画を促すための分かりやすい情報発信 | 学校からの情報発信をスマート化（日本語の表現の工夫やICTを活用して届きやすく読みやすく）する。 | 4 保護者に対して文書のうち、従来より分かりやすくて良かったもの 90%以上 | 86.7 | 4 学校からの文書等が分かりやすいという保護者評価 90%以上 | 87.2% | 学校ホームページ、各種おたよりなどが見やすくなりやすい表記であった。また、評議員とのやり取りもICTを積極的に活用し、双方向の情報やり取りを行うことで、学校の教育活動への理解が深まった。 | 情報発信のスマート化、わかりやすさはおおむね達成することができた。学校評議員の回答や表記の工夫により保護者の回答率が9割に迫り、参考となる多くの意見をいただけた。一方行事や学校公開のアンケートの回収率には課題が残る。工夫や改善を進める必要がある。 |
| | プロジェクト3 「みっちゃん」との互恵関係の構築 | みっちゃん団登録団体を拡充するとともに、地域行事の開催に貢献 | みっちゃん団登録団体を増加し、登録団体による具体的な学校支援を依頼する。「ほどくぼんおどり」を実行委員会と協力、連携して開催する。これを契機に地域の事業所の協力を得た教育活動を促進する。 | 4 みっちゃん団やほどくぼんおどりの協賛を依頼する団体 各事業体3回以上 | 93.4 | 4 地域活動に参加したい、興味をもったという保護者評価 90%以上 | 70.9 | みっちゃん団、育成会、ほどくぼんおどりなど地域の活動に生徒が参加し活躍する姿が見られて良かった。参加する生徒が戸惑うことがないよう、役割や手順の明確化を行い、さらなる参加を促した。地域の人の日々のコミュニケーションから、子供たちは地域から見守られていると感じている。 | 学校施設開放外部団体のみっちゃん団への参加、民生委員や地域消防団の積極的な学校教育活動への参画を促し、学校支援に繋げることができた。今後も一層連携を深め、地域と共にある教育活動を行ってきたい。 |
| みんなの多様な学びとあわせをつくる | プロジェクト2 過去から未来につながる自分の学びを見通して構想 | 将来の夢につながる学びのキャリアを見える化 | キャリアパスポートの活用頻度を向上し、「何を学んだのか」「どのように学んだのか」の生徒への意識付けを図る。小学校、小学生向けの中学校生活のガイダンスを充実させ、希望をもった進学につなげる。3年卒業時には、18歳の社会参加を想像した進路選択を指導し進路決定につなげる。 | 4 キャリアパスポートを活用した指導に手応えを感じる教員 90%以上 | 76.7 | 4 将来の夢を構想していくことは自分にとって有意義だと考える生徒 90%以上 | 57.7 | 将来の夢の構想については、アンケートの結果を見ると課題が残る数字ではあった。小さな目標から1つずつステップを登っていくと最終的な目標が見え、将来の夢につながるというメッセージを伝えていきたい。 | 教育課程におけるキャリア教育を見直し、学びの連続性を意識し将来の夢につながる学びへと改善していく。またキャリアパスポートを有効活用できるように、内容を改め自らの足跡として中学校生活を振り返り、進路選択に繋がるものとしていく。 |
| | プロジェクト2 多様な学びの実現に向けた意識で知識の習得 | 多様な学びの場を貴く教科指導「自立活動」の正しい理解と個に応じた配慮 | 教育課程を構造的に理解し、通常の学級における特別支援教育の目的に沿った生徒理解を充実させる。合わせて、特別支援学級・特別支援教室における教科指導を充実させる。 | 4 生徒の多面的理解や特性理解の共有が図れたと感じる教員 90%以上 | 93.3 | 4 先生は生徒が学びやすいように配慮していると考える生徒 90%以上 | 90.3% | 来年度の教育課程の構想には、行政へはたらきかけもきめて支援していきたい。多様な生徒を包摂する学校であって欲しい。教員は熱量を持って授業を行っている様子が見られる。相談しやすさという部分では口頭だけでなく、テキストメッセージを利用などの工夫はどうか。 | 通常の学級における特別支援教育の一層の理解、推進を行う。特別支援学級・特別支援教室を含め、教科指導の充実と共に、学んだことの評価方法の開発を進めていきたい。また、教員間で理解の深化を行いそれぞれ指導に活かしていく。 |
| 社会と未来に開き、みんなてつくる | プロジェクト1 地域社会での体験と学校内の生活の往還 | 地域に根差した総合的な学習の時間や特別活動等と、校内での各種活動との学び合い | より豊かな社会体験を目指し、みっちゃん団登録団体や地域事業所の後援を得た体験活動を実施するとともに、校内諸活動の見直しを行う。 | 4 新たな体験の創出と校内諸活動の見直しに手応えを感じる教員 90%以上 | 92.7% | 4 体験を通して自己の対話に気づき、学びの深まりを自覚する生徒 90%以上 | 76.0 | きまり検討委員会の内容はとても良かった。子供たちの意見を取り入れていくことは時代的にもあっている。子供には考えるポテンシャルがある。アウトプットの機会があることがアンケートの結果から明らかになった。学びの背景を理解させる声掛けを行っていく。 | きまり検討委員会の内容はとても良かった。子供たちの意見を取り入れていくことは時代的にもあっている。子供には考えるポテンシャルがある。アウトプットの機会があることがアンケートの結果から明らかになった。学びの背景を理解させる声掛けを行っていく。 |
| | プロジェクト1 総合的な学習等と各教科等の学習の往還 | 体験を通して得られた知識や技能を教科の内容に照らし検証し、よりよい指導計画の作成 | 校内研究として総合的な学習の時間の実践研究を実施する。分析して得られた教科の内容を含む部分の指導計画の教科会での検討を行う。 | 4 校内研究が積み、カリキュラム・マネジメントの理解が深まったと考える教員 90%以上 | 93.3 | 4 学校の教育計画が分かりやすく、興味が高まるという保護者評価 90%以上 | 79.7 | 1年生の職業インタビューや2年生の職場体験が将来へつなげる大切なプロセスだと感じる。小学校では、身近な疑問を持たせるはたらきかけを行っている。中学校での取り組みにつながるようはたらきかけをしていきたい。 | 主体性を育むため、総合的な学習の時間を通して実践研究を行った。ICT教材を活用し、各教科とどのように結びつかわるかを考えさせ、その視点をもって総合的な学習の時間に取組んだ。この研究から得られたことを来年度以降の教育活動に生かしていきたい。 |

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。

10 令和8年度 三中の学校教育目標

学校教育目標～メインテーマ



学校教育目標 「自立 共生」

教育目標 その理念、目指す学校像



日野三中は、多様な生徒を受け止め、誰一人取り残さない教育を実現することを決意する。

「自立と共生」の実現に向け、
生徒の心を育み、
生徒の学びを進め、
生徒の生きる未来を築き、
生徒の参画に向けた地域や関係機関との
つながりを築き、広げる。



自ら より良く 生きようとし、
地域の 人々と 共に暮らす 社会人
の育成を目指す。

→自己の確立・他者との共存

学ぶ生徒、働く教職員がみな健康で活気に満ちた学校となり、
地域から真に信頼され「あってよかった」と喜ばれる教育を目指す。

三中が目指す「誰一人取り残すことのない」は



すべての“生徒”が

よろこび
あふれる

分かる 楽しい

分からない 楽しくない

